No.11 多発している立木等 - 激突されの死亡災害事例（2019年）

2019年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
1	14 ～ 16	自社に所在する所有地に残土処分場を建設する準備作業として、同敷地内に生えている木の除去及び敷地内の整地作業を自ら行っていた。被災者はチェーンソーを使用し、立木（胸高直径50cm、長さ17m）の伐木作業を行っていたところ、伐倒した立木の下敷きとなった。	11009	712	6	10 ～ 29
12	8 ～ 10	林道新設工事に付随する残土処理場の造成工事である。造成予定の緩い斜面上の竹林内で、掘削工事に先立ち竹や立木の皆伐採作業をしていた。胸高直径約30cmの楡の木を伐倒するため受け口を入れ、追い口を設ける途中か退避中に、倒れ始めた立木の幹が約2mに渡り裂け、元口部分が被災者に激突した。	30106	712	6	1 ～ 9
6	12 ～ 14	谷補助通常砂防工事の作業現場において、砂防工事のための補助道路整備に伴う周辺樹木の伐木作業中、伐倒した樹木（杉：高さ約25m）が被災者の運転する重機に激突。被災者は外傷性頭部損傷により死亡したものの。	30107	712	6	1 ～ 9
8	8 ～ 10	送電設備（鉄塔）の組立工事に係る付帯業務として、被災者は保安伐採（支障木）を行っていた。被災者は、チェーンソーにより伐木作業を行っていた。被災者が立木（クリの木、樹高約18メートル、胸高直径約45センチメートル）の下敷きとなっている状況を、付近で作業していた労働者が確認。救急搬送されたものの、死亡した。	30199	712	6	1 ～ 9
		被災者と同僚作業員1名で、重機及び資材置き場を確保するために立				

6	10 ～ 12	木の伐倒を行っていたところ、被災者が使用していたチェーンソーが 追い口に挟まったため、替えのチェーンソーを使用して立木の一部と ともに挟まったチェーンソーを取り外した。その後、引き続き替えの チェーンソーを使用して追い口切りを再開したところ、突然樹幹が垂 直方向に割れ、割れた樹幹の端部が被災者の腹部に激突し、搬送先の 病院で死亡したもの。	30199	712	6	10 ～ 29
11	8 ～ 10	民家の敷地内及びその周辺において、立木の伐倒作業を行っていたと ころ、伐倒方向に向かって歩行していた被災者の頭部に伐倒木が激突 した。	30309	712	6	1 ～ 9
10	12 ～ 14	道路維持管理業務において、木の剪定作業を行っていたところ、木の 伐倒後に枝払いを行っていた際、伐倒木の支えとなっていた枝を切っ たため、木が山側に回転し、枝切りを行っていた被災者の後頭部に枝 が激突したもの。	30309	712	6	50 ～ 99
2	10 ～ 12	伐採した立木の下敷きになったもの。（被災者不在に気が付いた同 僚が現場周辺を探したところ、伐倒した木の下敷きになった状態で発 見された。切り株の直径は約60センチメートル）。	30309	712	6	50 ～ 99
7	8 ～ 10	被災者ら4名が、立木の伐出作業を行っていた時に発生した災害。被 災者はチェーンソーによる木材の伐倒作業に従事していた。災害発生当 日の作業内容は、「止め木」（前日までに伐倒した木を留め置きする ために残しておいた木）2本を伐倒する作業であった。1本目を伐倒 後、2本目の止め木（胸高直径33cm、長さおよそ20m）を伐倒 した際に、伐倒した木が被災者の退避した方向へ倒れ、被災者が伐倒 木の下敷きとなり被災した。	60201	712	6	30 ～ 49
5	14 ～ 16	伐木作業現場において、午後の作業終了後、被災者の姿が見当たらな いため、同僚が被災者を探したところ、伐倒されたスギ（樹高約19 メートル、胸高直径約30センチメートル）の下敷きとなっている状 態の被災者を発見した。その後、病院に搬送されたが、死亡が確認さ れたもの。	60201	712	6	1 ～ 9

5	14 ～ 16	<p>民有林の杉の伐採現場において、被災者は、他の作業者と共同で杉（樹齢約50年、樹高23.3m）の伐倒作業を行っていた。被災者は、他の作業者がチェーンソーで追い口を入れたところにクサビを打ち込む作業を行っていたところ、伐倒木が伐倒予定方向とは違う方向に倒れ、近くで作業していたグラップルの掴みアーム部に接触し、その反動で伐倒木が被災者の退避場所に滑り、被災者に激突した。</p>	60201	712	6	1 ～ 9
5	14 ～ 16	<p>民有林の皆伐作業現場において、被災者はチェーンソーを用いて伐倒作業中、ナナカマドの木を伐倒したところ、当該伐倒木が被災者側に倒れてきて、被災者の腹部に激突した。被災者は、同僚が発見した時は会話は出来たものの、容態が悪くなり、同日、搬送先の病院で骨盤多発骨折による出血性ショックで死亡した。被災者に激突した伐倒木の胸高直径は18.5cm、樹高16.6mであった。伐根に切り残しは無かった。</p>	60201	712	6	10 ～ 29
4	10 ～ 12	<p>チェーンソーを用いて伐木作業を行っていたが、伐倒した木が別の木にかかって倒れなかったため、チェーンソーを用いてかかっている木の元玉切りを行ったところ、かかっている木が外れて労働者に激突した。</p>	60201	712	6	1 ～ 9
4	12 ～ 14	<p>勾配が約38度ある斜面で伐木作業を行っていた被災者が、昼休憩になっても戻らないため、同僚労働者が捜索したところ、被災者が最後に伐倒した伐倒木の切り株の約9m下に倒れていたもの。多発肋骨骨折による外傷性気胸による死亡が確認されたもの。</p>	60201	712	6	30 ～ 49
4	10 ～ 12	<p>被災者は民有林内にて同僚1名とともに、チェーンソーを用いて伐木作業を行っていた。被災者が扱っていたチェーンソーの音が聞こえなかったため同僚が捜索したところ、仰向けの状態でクルミの木（胸高直径30cm）の下敷きになっているところを発見した。木には受け口及び追い口が作られていたが、追い口部分から縦に裂け被災者に覆いかぶさっていた。</p>	60201	712	6	10 ～ 29
		<p>有林皆伐現場において、ト胸高直径28センチ、長さ約17mの木を</p>				

3	14 ～ 16	チェーンソーで伐倒作業中、矢を打って伐倒木が倒れていくときに、蔓が上部で絡んでいた為に、方向が変わり近くで同じくチェーンソー伐倒中の被災者の頭部に直撃し死亡したもの。（頭蓋骨骨折等）	60201	712	6	10 ～ 29
2	8 ～ 10	杉林の間伐作業現場において、チェーンソーを使用して伐木作業を行っていたところ、伐倒木（長さ約28m、胸高直径約35cm）に頭を挟まれた。	60201	712	6	10 ～ 29
4	6 ～ 8	間伐作業を行うにあたり、当該現場まで林業機械を搬入するための作業道を開設しようと、掘削等の支障となる立木の伐採作業に従事。公道付近の傾斜38度の斜面上にある二股に分かれた立木（アカマツ）のうち1本（胸高直径約24cm、樹高約24m）を伐採したところ、公道と反対側の伐倒方向に倒れず、付近の立木と枝がらみし、その後、公道側に倒れてきて、公道上に退避していた被災者の頭部に当該伐倒木が激突した。	60209	712	6	10 ～ 29
4	10 ～ 12	伐木等の業務に係る特別教育の実技講習中、講師がチェーンソーを使用して伐倒した杉の木（胸高直径約40cm、樹高約32m）が特別教育を受講していた被災者に激突したものの。	60209	712	6	30 ～ 49
12	8 ～ 10	山林内で、台風により傷んだ木の伐木等作業を行っていたが、チェーンソーにより伐木しようとした木（長さ約11メートル）が意図した方向とは反対の方向に倒れたため、玉切り作業を行っていた被災者に直撃し下敷きとなったもの。被災者は病院に運ばれたが搬送先の病院で死亡が確認された。	170209	712	6	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_36.html